

## 子供のしつけ

最近子供の社会的態度についてのしつけをどうするかがいろいろに論議されている様である。戦時中に於ける一部日本人の敵国民に対する非行の反省などから、従来日本人に欠けていた社会的態度を涵養するには、どうしても子供のうちからなされなくてはならぬと気がついたのである。そこで民主的な態度を子供にしつけるにはどうすればよいかということになるが、この点になると今のところ依然として原則論にとどまっているようである。即ちしつけは嚴重たるべしと言うか、或は自由でなくてはならぬと言うかである。

アメリカの初等学校二年生の教科書に兄妹の間で何して遊ぶかという事について意見が分れたとき、実際のな解決をどうしたかという話がユーモラスに書かれている。兄はボール遊びをしたい、妹は学校ごっこがしたいと言いが張るが、小犬が妹のオルガンの傍についていたので、ポチお前まで学校ごっこがしたいなら僕も衆議に従おうと兄が折れるのである。

こういう実際のな態度は夫々具体的な場面に即して教えられなくてはならないのであつて、それがしつけである。そういう教育がなくて、自然に放任されていい筈もなく、また実際に即した態度も教えないでただ叱りつけるばかりでもしつけにはならないのである。日本ではそういう民主的態度を実際に即して子供に教える程、大人がまず成長することが大切なような気がしてならない。(Y)